

『がん治療の今』 ～日本発のがん治療：重粒子線～

《第12回 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 講演会》

講演会ガイド



日時/平成27年11月29日(日)
場所/山形国際交流プラザ
ビッグウィング・大会議室

■主催/公益財団法人医用原子力技術研究振興財団 ■共催/国立大学法人山形大学

■後援/文部科学省 厚生労働省 山形県 山形市 一般社団法人山形県医師会 一般社団法人山形市医師会 国立研究開発法人放射線医学総合研究所
公益財団法人日本対がん協会 東北がんプロフェッショナル養成推進プラン



黄色い葉は痛くない、切らない、簡単な3つを表しています。
緑の葉はやさしい治療を表しています。
「Quality of Life」というコピーは、
放射線治療がQOL（Quality of Life）の向上に大きく寄与し、
がん治療の新しい時代を切り拓いて行くという決意を表しています。

公開講演会『がん治療の今』 ～日本発のがん治療：重粒子線～

開催要旨

長い間、がん治療のメインは手術とされてきましたが、“がん”は治ったけれども、治療後は身体的な障害や生活上の制限を受けることもありました。

今日の“がん”医療では、患者さんのQOL（quality of life = 生活の質）を大切として、治療3本柱である「手術」「化学療法」「放射線治療」をうまく組み合わせた“がん”治療が施されています。

重粒子線がん治療は日本の優れた“医療”と“科学技術”により、世界に先駆けて実用化された、「放射線（重粒子線）を用いて、体の外から“がん腫瘍”を狙い撃ちする治療法」の一つです。

重粒子線は他の放射線に比べて体内で広がりにくく、届く深さをコントロールできるため、がん腫瘍の位置、大きさ、形状に合わせてピンポイントで治療効果を集中させることができます。また、放射線に強い種類の“がん”にも高い効果があることが特徴です。

患者さんの身体的負担が少なく短期間で元の社会生活に復帰できる、患者さんのQOLを重視した“がん”治療です。

本日の公開講演会では、『がん治療の今』と題しまして、山形大学の共催による重粒子線がん治療施設設計画のご紹介と、重粒子線がん治療の現状について第一線で活躍しておられる先生方、実際に治療を受けた方にお話し頂きます。

ご参会の方々にお礼を申し上げますと共に、この公開講演会をきっかけに皆様のご健康と“がん”医療への関心・理解を深めて頂ければ幸いです。

○山形大学 重粒子線がん治療施設と、がん医療の広域病院連携について

山形大学では医学部を中心に10年以上前から、広域的な有効利用を前提とした「重粒子線がん治療施設」の実現に取り組んできました。現在は平成31年10月の治療開始を目標とし、施設と装置の設計を行っています。

装置の性能は最先端としながら、

- ①省エネルギー、
- ②省スペース、
- ③扱いやすい装置、
- ④廃棄物の軽減
- ⑤病院に併設しやすい建屋構造等の特徴を兼ね備えます。



一方、広大な面積を持つ東北地域で、遠方の患者さんが治療施設に赴くことなく、最適な“がん”治療の診療相談が受けられるように、東北計60病院、及び重粒子医科学センター病院（千葉：放医研）をTV会議システムで接続した診療連携体制も整備しました。

主催 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団

共催 国立大学法人山形大学

後援 文部科学省、厚生労働省、山形県、山形市、一般社団法人山形県医師会、一般社団法人山形市医師会、国立研究開発法人放射線医学総合研究所、公益財団法人日本対がん協会、東北がんプロフェッショナル養成推進プラン

プログラム

公開講演会

《第12回 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 講演会》

『がん治療の今』～日本発のがん治療：重粒子線～

開催日時：平成27年11月29日(日)

開催場所：山形国際交流プラザ ビッグウィング・大会議室

司会

フリーアナウンサー 佐藤 博子

13:30～13:50

開会挨拶

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
代表理事・副理事長

辻井 博彦

山形大学 学長

小山 清人

来賓挨拶

【第1部】基調講演

13:50～14:40

講演1 「がん治療の今」～日本発のがん治療：重粒子線～

国立研究開発法人 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター長

鎌田 正

14:40～15:20

講演2 「東北における粒子線治療について」

山形大学 医学部 放射線腫瘍学講座 教授

根本 建二

15:20～15:30

休憩（10分間）

【第2部】パネルディスカッション「重粒子線がん治療への期待」

15:30～16:50

コーディネーター

山形大学 医学部参与

嘉山 孝正

パネリスト

山形大学 医学部附属病院長

久保田 功

神奈川県立がんセンター 重粒子線治療科部長

野宮 琢磨

山形県商工会議所連合会 会長

清野 伸昭

重粒子線治療経験者

菅原 了介

16:50～17:00

閉会挨拶

山形大学 医学部長・医学部がんセンター長

山下 英俊



司会

佐藤 博子

フリーアナウンサー
(元山形放送アナウンサー)

佐藤 博子 (さとう ひろこ)

略 歴： YBC 時代は、TV 朝ニュースワイド、TV 夕方ニュースワイド、TV 特別番組等を担当する。

退社後はフリー AN として活動、YBC ラジオ番組パーソナリティー、YBC テレビ番組キャスター、リポーター、また、ドキュメンタリー番組、プロモーションビデオ、CM 等のナレーターを務める。

紙上対談、シンポジウムやフォーラムパネリスト・コーディネーター、各種イベント（大会、式典、祝賀会、パーティ、結婚披露宴など）の司会も多数。

現在の担当番組 YBC テレビ ハウジングロード



辻井 博彦

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
代表理事・副理事長

辻井 博彦 (つじい ひろひこ)

略 歴： 昭和 43 年 北海道大学医学部卒業
昭和 44 年 国立札幌病院放射線科勤務
昭和 47 年 ニューヨーク市 St Vincent Hospital レジデント
昭和 49 年 北海道大学医学部放射線科講師
在職中に米国とスイスで各 1 年間パイ中間子治療プロジェクトに参加
平成 元年 筑波大学臨床医学系教授・陽子線医学利用研究センター長
平成 6 年 放射線医学総合研究所・重粒子治療センター病院長
平成 20 年 同理事
平成 23 年 放射線医学総合研究所フェロー
平成 26 年 公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 代表理事・副理事長

表彰など： 平成 17 年 高松宮妃癌研究基金学術賞
平成 18 年 国際粒子線治療研究会 (PTCOG) 会長
平成 25 年 日本放射線腫瘍学会特別功労賞 (Gold Medal)
平成 27 年 瑞宝中綬章

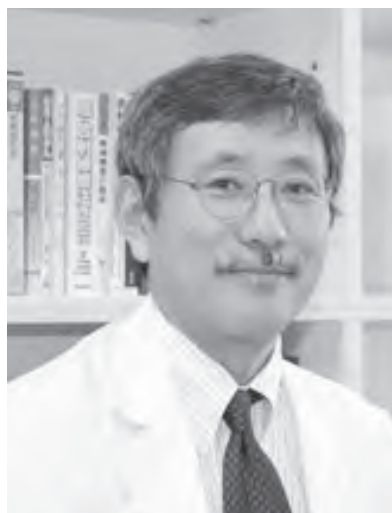


小山 清人

山形大学 学長

小山 清人 (こやま きよひと)

略 歴： 昭和 47 年 3 月 山形大学工学部繊維工業科 卒業
昭和 49 年 3 月 山形大学大学院工学研究科修士課程修了
昭和 57 年 12 月 工学博士（東京工業大学）取得
昭和 49 年 4 月 山形大学 助手 工学部
昭和 62 年 10 月 山形大学 助教授 工学部
平成 4 年 4 月 山形大学 教授 工学部
平成 7 年 3 月 山形大学 附属図書館工学部分館長（～平成 10 年 12 月）
平成 10 年 11 月 山形大学 評議員（～平成 13 年 8 月）
平成 11 年 2 月 山形大学大学院ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長
（～平成 17 年 3 月）
平成 16 年 4 月 山形大学 工学部長・大学院理工学研究科長
（～平成 19 年 8 月）
平成 19 年 9 月 山形大学 理事・副学長（～平成 26 年 3 月）
平成 26 年 4 月 国立大学法人山形大学長



講演1

「がん治療の今」

～日本発のがん治療：重粒子線～

鎌田 正

国立研究開発法人 放射線医学総合研究所
重粒子医科学センター長

鎌田 正 (かまだ ただし)

略 歴： 昭和 54 年 北海道大学医学部医学科卒業
 昭和 56 年 文部教官北海道大学助手（医学部附属病院放射線科）
 平成 6 年 科学技術庁放射線医学総合研究所重粒子治療センター治療診断部治療課医長
 平成 9 年 医学博士
 平成 13 年 独立行政法人放射線医学総合研究所重粒子医科学センター診断課臨床検査室長、千葉大学大学院医学研究院客員助教授併任
 平成 15 年 独立行政法人放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院治療課長、重粒子線がん治療臨床試験プロジェクトリーダー併任
 平成 18 年 独立行政法人放射線医学総合研究所重粒子医科学センター病院治療課長、臨床治療高度化研究グループリーダー、診断・治療高度化研究グループリーダー併任
 平成 20 年 独立行政法人放射線医学総合研究所重粒子医科学センター長（現職）、現在に至る

千葉大学大学院医学研究院客員教授併任
 北海道大学大学院医学研究科客員教授併任
 群馬大学医学部客員教授併任
 新潟大学大学院医歯学総合研究科客員教授併任

専 門： 重粒子線医学



講演2

「東北における粒子線治療について」

根本 建二

山形大学 医学部 放射線腫瘍学講座 教授

根本 建二 (ねもと けんじ)

略 歴： 昭和57年 3月 東北大学 医学部卒業
 昭和57年 6月 宮城県立 成人病センター放射線科
 昭和59年 4月 東北大学 医学部 大学院入学 昭和63年卒業
 昭和63年 4月 東北大学 医学部附属病院 助手
 平成13年 4月 東北大学 医学系研究科 量子治療学分野学 講師
 平成16年 4月 東北大学 医学系研究科 放射線腫瘍学分野 助教授
 平成18年 4月 山形大学 医学部 放射線腫瘍学講座 教授
 平成19年 4月 山形大学 医学部 がん臨床センター長
 平成24年 4月 山形大学 医学部附属病院 副病院長
 平成27年 4月 山形大学 医学部 副医学部長

在外研究歴：

短期 昭和61年10月～昭和61年12月
 Department of Radiation Biology, Lawrence Berkeley National Laboratory, Berkeley, CA、

テーマ 重イオンビーム（シリコンビーム）の実験腫瘍に対する効果

長期 平成7年3月～平成8年3月
 Department of Developmental Radiotherapy, British Columbia Cancer Agency, Vancouver, BC Canada

テーマ パイ中間子線による脳腫瘍、前立腺がん治療
 陽子線分割照射の生物効果の研究

専門領域： 放射線腫瘍学、消化器がんの放射線治療

所属学会等：学会役員（理事）

日本放射線腫瘍学会理事（専務理事）
 日本食道学会理事
 医学物理士認定機構理事

その他：最近では山形大学への重粒子線治療装置導入に向けた各種活動
 東北がんネットワークの放射線治療委員長として東北の放射線治療のとりまとめ

「重粒子線がん治療への期待」



コーディネーター

嘉山 孝正

山形大学 医学部 参与
 山形大学 先進がん医学講座 特任教授
 医学部次世代型重粒子線治療装置研究開発室長
 国立がん研究センター名誉総長

嘉山 孝正 (かやま たかまさ)

略 歴： 昭和 50 年 3 月 東北大学医学部卒業
 昭和 50 年 4 月 東北大学医学部脳神経外科入局
 昭和 53 年 4 月 ドイツ連邦共和国 Justus Liebig 大学
 脳神経外科 (Prof.H.W. Pia) 留学
 昭和 56 年 4 月 東北大学助手
 昭和 58 年 7 月 国立仙台病院脳卒中センター
 昭和 61 年 9 月 国立仙台病院脳神経外科
 平成 2 年 10 月 東北大学医学部講師
 平成 6 年 5 月 山形大学助教授
 平成 8 年 7 月 山形大学教授
 平成 14 年 4 月 山形大学医学部附属病院長
 平成 15 年 10 月 山形大学医学部長
 平成 22 年 4 月 国立がん研究センター理事長
 平成 24 年 4 月 山形大学学長特別補佐, 国立がん研究センター名誉総長
 平成 27 年 4 月 山形大学名誉教授, 山形大学医学部先進がん医学講座特任教授, 山形大学医学部参与

専門分野： 脳神経外科

受賞歴： 昭和 62 年 中村隆賞銅賞 (東北脳血管障害研究会)
 平成 10 年 山形新聞社賞 (山新 3P 賞) 平和賞受賞
 平成 12 年 黒川利雄賞受賞 (宮城県対がん協会)
 平成 16 年 平成 16 年度山形県救急医療・救急業務関係者知事表彰
 平成 22 年 (社)日本脳神経外科学会齋藤眞賞社会部門賞受賞
 平成 22 年 山形県科学技術賞受賞
 平成 23 年 第一回石坂公成賞受賞 (山形大学医学部)

学会・社会活動等：

(平成 17 年～平成 21 年, 平成 25 年～) 世界脳神経外科学会 executive committee
 (平成 11 年～) 米国脳神経外科学会会員
 (平成 25 年 9 月～) 日本脳神経外科学会理事長
 (平成 19 年～) 日本脳腫瘍の外科学会理事長
 (平成 17 年 7 月～) 日本癌治療学会代議員
 (平成 23 年) 第 70 回日本脳神経外科学会総会会長
 (平成 25 年～) 日本医師会会長特別顧問
 (平成 22 年～) 全国医学部長病院長会議相談役
 (平成 22 年～) 国立大学医学部長会議相談役
 (平成 23 年～) 被災者健康支援連絡協議会事務局長
 (平成 24 年～) 日本医療安全調査機構 理事
 (平成 25 年～) 日本医学会 評議員

「重粒子線がん治療への期待」



パネリスト

久保田 功

山形大学 医学部 附属病院長
山形大学 医学部 内科学第一講座 教授

久保田 功 (くぼた いさお)

略 歴： 昭和 54 年 山形大学医学部卒業
山形大学第一内科入局
昭和 58 年 山形大学医学研究科修了
昭和 61 年 米国ユタ大学留学
平成 4 年 山形県立中央病院内科 医長
平成 5 年 山形大学医学部 第一内科 講師
平成 6 年 山形大学医学部 内科学第一講座 助教授
平成 9 年 米国ハーバード大学留学
平成 12 年 公立置賜総合病院 診療部長
平成 14 年 1 月～ 山形大学医学部 内科学第一講座 教授

平成 22 年 4 月～ 山形大学医学部附属病院長
平成 22 年 4 月～ 山形大学経営協議会委員

「重粒子線がん治療への期待」



パネリスト

野宮 琢磨神奈川県立がんセンター
重粒子線治療科 部長**野宮 琢磨** (のみや たくま)

略 歴： 平成 10 年 4 月 東北大学医学部附属病院 医員
平成 18 年 9 月 放射線医学総合研究所客員研究員
平成 22 年 4 月 山形大学医学部講師
平成 24 年 4 月 山形大学医学部准教授
平成 24 年 6 月 放射線医学総合研究所重粒子医科学センター医長
平成 27 年 8 月 神奈川県立がんセンター重粒子線治療科 部長
現在に至る

平成 10 年 3 月 東北大学医学部医学科卒業
平成 15 年 3 月 東北大学大学院修了 (医学博士)
平成 15 年 8 月 日本医学放射線学会認定専門医
平成 18 年 10 月 日本放射線腫瘍学会認定医
平成 20 年 4 月 日本がん治療認定医機構認定医

所属学会等：

ASCO (American Society of Clinical Oncology) member
日本医学放射線学会
日本放射線腫瘍学会
日本生物部会、日本食道学会、日本頭頸部学会

「重粒子線がん治療への期待」



パネリスト

清野 伸昭

山形県商工会議所連合会 会長

山形パナソニック株式会社

代表取締役会長

清野 伸昭 (せいの のぶあき)

-
- 略 歴：**
- 昭和 40 年 3 月 立教大学経済学部 卒業
 - 昭和 40 年 4 月 松下電器産業株式会社 入社
(現 パナソニック株式会社)
 - 昭和 44 年 2 月 山形ナショナル電器販売株式会社 入社
(現 山形パナソニック株式会社)
 - 昭和 50 年 1 月 取締役就任
 - 昭和 57 年 3 月 代表取締役就任
 - 昭和 62 年 2 月 代表取締役社長就任
 - 平成 25 年 6 月 代表取締役会長就任
現在に至る
 - 平成 5 年 6 月 トヨタカローラ山形株式会社 取締役就任
 - 平成 13 年 6 月 キャプテン山形株式会社 代表取締役社長就任
 - 平成 17 年 6 月 株式会社テレビユー山形 監査役 就任
- 公 職 歴：**
- 平成 12 年 5 月 社団法人山形法人会 副会長 就任
 - 平成 17 年 5 月 山形県中小企業団体中央会 副会長 就任
 - 平成 22 年 11 月 山形商工会議所 会頭 就任
 - 平成 22 年 11 月 山形県商工会議所連合会 会長 就任

「重粒子線がん治療への期待」



パネリスト

菅原 了介

重粒子線治療経験者
山形県酒田市在住

菅原 了介 (すがわら りょうすけ)



山下 英俊

山形大学 医学部長・医学部がんセンター長
山形大学 医学部 眼科学講座 教授

山下 英俊 (やました ひでとし)

- 略 歴：** 昭和 56 年 3 月 31 日 東京大学医学部医学科卒業
昭和 56 年 6 月 1 日 東京大学医学部眼科学教室医員 (研修医)
昭和 57 年 4 月 1 日 東京大学医学部眼科学講座助手
昭和 60 年 1 月 16 日 国家公務員等共済組合連合会三宿病院
及び自衛隊中央病院眼科勤務
昭和 62 年 1 月 16 日 東京大学医学部眼科学教室講師
平成 4 年 5 月 20 日～平成 6 年 8 月 31 日
スウェーデン ウプサラ大学へ留学
平成 6 年 9 月 1 日 東京大学医学部眼科学教室講師へ復職
平成 11 年 7 月 1 日～山形大学医学部眼科教授
平成 15 年 11 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日
山形大学医学部附属病院長
平成 22 年 4 月 1 日～山形大学医学部長
平成 27 年 4 月 1 日～山形大学 医学部 がんセンター長
現在に至る
- 受賞歴：** 平成 4 年 5 月 8 日 平成 3 年度日本眼科学会学術奨励賞受賞
平成 8 年 第一回 Rohto Award (ロート賞) 受賞
平成 9 年 4 月 28 日 平成 8 年度東京大学医師会医学賞受賞(第 11 号)
平成 19 年度 日本眼科学会評議員会賞受賞

第12回 医用原子力技術研究振興財団講演会

ご協力ありがとうございます。

本講演会の開催に際しまして、ご協賛をいただきました。
厚く御礼申し上げます。

(敬称略)

協賛企業

株式会社東芝
富士フイルムR I ファーマ株式会社
日本メジフィジックス株式会社
丸木医科器機株式会社

広告協賛企業

株式会社東芝
富士電機株式会社
損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社 山形支社
全国共済農業協同組合連合会 山形県本部
株式会社エフエスユニマネジメント
株式会社日立製作所
富士通株式会社
アフラック 山形支社
日本生命保険相互会社 山形支社
三井住友海上火災保険株式会社 山形支店山形支社

TOSHIBA
Leading Innovation >>>

ジャポニカアレイ® ジェノタイピングサービス

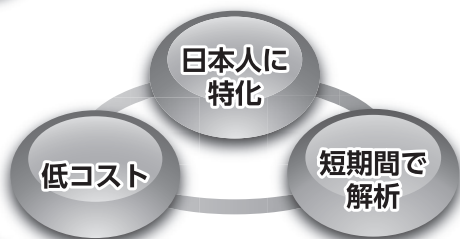
Check!

ジャポニカアレイ®とは

ジャポニカアレイ®は、国立大学法人東北大学東北メディカル・メガバンク機構が構築した「全ゲノムリファレンスパネル」を基に、COI東北拠点が社会実装した日本人ゲノム解析ツールです。日本人に特徴的な塩基配列を持つ約66万箇所の一塩基多型を1枚のチップに搭載しており、短期間で日本人のゲノム情報を解析するツールです。その解析結果から約30億塩基の全ゲノム情報を疑似的に再構成（インピュテーション）できる設計となっています。

Check!

ジャポニカアレイ®*1ジェノタイピングサービスの特長



本サービスは大学、病院、製薬企業などの研究機関向けの採用を目指します。*2

*1 ジャポニカアレイ®は国立大学法人東北大学の登録商標です。

*2 ジャポニカアレイ®ジェノタイピングサービスは研究者向けサービスであり、研究用途での活用を目的としています。本サービスの解析結果は、診療・診断用途ではありません。

株式会社 **東芝** ヘルスケア社 ヘルスケア医療推進部 ライフサイエンス部
〒105-8001 東京都港区芝浦1-1-1 TEL(03)3457-2984

放射線管理のベストパートナー

富士電機は、放射線計測に関する豊富な知識と技術で、放射線利用施設の計画立案、設計・施工、運用、メンテナンスに至るまで、お客様を一貫してサポートします。

取扱製品

放射線管理システム

放射線モニタリングシステム

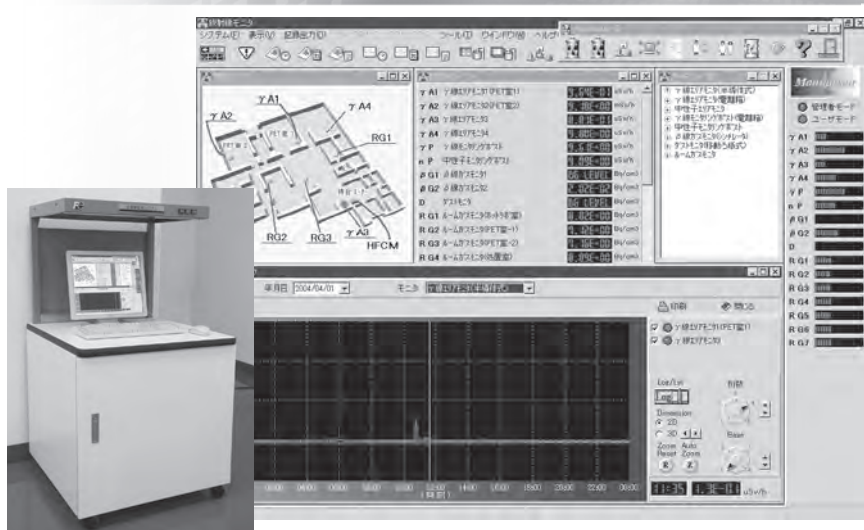
R I 排水管理システム

出入管理システム

非密封R I 管理システム

従事者管理システム

インターロックシステム



測定器

各種サーベイメータ

個人線量計／環境線量計

モニタリングポスト

ホールボディカウンタ

体表面モニタ

食品放射能検査システム

その他



富士電機株式会社 産業インフラ事業本部 計測制御システム事業部 放射線システム部

〒191-8502 東京都日野市富士町1番地 TEL 042 - 585 - 6024

<http://www.fujielectric.co.jp/> Email fric-info@fujielectric.co.jp

笑顔を、まもる。

当社は、損保ジャパン日本興亜グループの中核生命保険会社として、
お客さまの安心・安全・健康に資する最高品質のサービスをご提供し、

これまで以上に社会に貢献してまいります。

今後とも、変わらぬご愛顧を賜りますよう、

何卒よろしくお願い申し上げます。



損保ジャパン日本興亜 ひまわり生命

山形支社

山形市松波 1-1-1 損保ジャパン日本興亜山形ビル 5 階
T E L 023-625-3766

JAの がん共済

「生きる」を応援する力になる。
それって、心強いと思います。



「生きる」を応援する一生涯のがん保障

ポイント1 上皮内がんから脳腫瘍まで、幅広いがんの治療を一生涯保障。	ポイント2 がん診断時から再発・長期治療までしっかり保障。	ポイント3 入院日数無制限、がん手術・放射線治療も手厚く保障。	ポイント4 がんで先進医療を受けたときの技術料も保障。
--	---	---	---------------------------------------

〈ご契約例〉 がん入院共済金日額10,000円 充実型・先進医療保障あり

がん不担保期間(90日)	がんと診断されたとき がん診断共済金 200万円 共済期間を通じて1回	がんで入院のとき がん入院共済金 1日あたり 10,000円 日帰り入院からOK※1 通算支払限度なし	がんで手術のとき※2 がん手術共済金 入院中の手術1回あたり 40万円 外来手術1回あたり 10万円 公的医療保険制度と連動 何回でも保障(一部を除く)	がんで放射線治療のとき※2 がん放射線治療共済金 1回あたり※3 20万円 公的医療保険制度と連動 何回でも保障	がん再発時や長期治療のとき※4 がん治療共済金 100万円 何回でも保障(1年に1回)	がんで先進医療を受けたとき※5 がん先進医療共済金 1回あたり 先進医療にかかる技術料に応じて定める額 通算1,000万円まで保障	一生涯保障
	<small>■この共済の対象となる「がん」は、悪性新生物(上皮内新生物を含む)および脳腫瘍です。 ■がんに関する責任(保障)の開始は、ご契約日からその日を含めて90日を経過した日の翌日からとなります。これ以前に被共済者が悪性新生物または脳腫瘍と診断確定された場合には、ご契約は無効とし、共済金はお支払いいたしません。なお、共済金の払込免除についてはご契約日から保障いたします。</small>						

※1 日帰り入院は、入院基本料の支払いの有無などにより判断されます。 ※2 がん治療を目的とし、医師診療報酬点数表により手術料・放射線治療料が算定されるものを保障します(一部の手術を除きます)。 ※3 60日に1回を限度とします。 ※4 がん治療の長期化や転移・再発により、がん診断共済金または前回のがん治療共済金の支払事由に該当した日からその日を含めて1年を経過した日以後にがん入院共済金、がん手術共済金、がん放射線治療共済金が支払われることとなる入院、手術、放射線治療のいずれかを受けられた場合に、がん治療共済金をお受取りになれます(1年に1回を限度)。 ※5 先進医療とは、療費を受けられた時点において厚生労働大臣が定める先進医療をいいます(一定の施設基準があります)。 がん先進医療共済金の額は、先進医療にかかる技術料が1万円以上の場合は技術料の額、1万円未満の場合は一律1万円となります。

- この広告は概要を説明したものです。ご契約の際には「重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。
- ご加入にあたりましては、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。
- JA共済ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp>

資料請求はこちら ▶

はじめて共済

検索

<http://shiryo.ja-kyosai.or.jp>



くらしの保障、相談するなら



15481050158



生命を守る人の環境づくり

地域中核病院や大学付属病院をはじめとする大型医療機関のリモデル(建替・再整備)。
最新のリモデル・医療プロジェクトはグリーンホスピタルサプライへ、ご相談ください。



[トータルパックシステム事業]

病院リモデルにおいて、豊富な知識と経験に基づくコンサルティングやヘルスケアエンジニアリングを通じ、企画構想段階から、医療設備・医療機器・情報ネットワークの整備及び調達、開業後の経営支援等、病院運営に必要なあらゆるバリューを提供してまいります。

〈設備提案・設計施工〉最先端の設備・機器(ICU・CT・手術室・無菌病室等)のご提案／医療設備設計支援等
〈医療機器選定支援業務〉医療設備機器の選定支援・販売・搬入据付等

[メディカルサプライ事業]

日々使用される診療材料、医療用消耗品などの販売や管理・調達などを一括で請負い、現場スタッフが医療に集中できる環境づくりを継続して行います。

HITACHI
Inspire the Next

みんなが
お医者さんになれたらいいのに。

そうだね。でも、健康の問題はとても大きいから、
お医者さんだけで全てを抱えるものではないのです。
高齢化社会、生活習慣病、医療費の増大など、健康に関わる課題はさまざま。
だから日立は、先端のITと医療システムを駆使して、
予防から検査・診断、治療、介護などのプロセスで、
より良いヘルスケアソリューションを提供します。
誰もが健康に暮らせる社会をつくりたい。それが、日立のソーシャルイノベーション。
social-innovation.hitachi.com

SOCIAL INNOVATION
**IT'S OUR
FUTURE**



FUJITSU

あなたを、まんやかに。

もっとワクワクできるように。もっとお役にたてるように。
私たちの技術や製品は、つねに使う人を想像して進化してきました。

富士通がめざすICTは、そう、人がまんやか。
つくりたいのは、あなたのために明日です。

shaping tomorrow with you

夢をかたちに

あなたと、あなたの大切な人へ。

「がん」と聞くと、どこか他人事のように感じませんか。

しかし、がんは日本での死亡原因第一位。決して他人事ではありません。

そしてあなたは「がん」のこと、どのくらい知っていますか？



「生きる」を創る。

Aflac

No.1

**アフラックはがん保険
契約件数 No.1**

平成26年版「インシュアランス生命保険統計号」

契約内容の照会・各種お問い合わせ・ご相談ならびに苦情について

コールセンター 0120-5555-95

月曜日～金曜日 9:00～18:00 土曜日 9:00～17:00 ※祝日を除きます。

生きていく
あなたに、
安心の5つ星を。



生きるための保険。

みらいのカタチ

★★★★★
5つ星

継続サポート3大疾病保障保険付プラン

継続サポート3大疾病保障保険は「死亡保障を抑え、
がん・急性心筋梗塞・脳卒中に重点的に備える保険」です！



日本生命

山形支社 〒990-0031 山形市十日町 2-1-2

007-H27-220

森と人間、 どちらも元気にする方法が 見つかった。

インドネシア熱帯雨林再生プロジェクト。地元住民が生活のために伐採した森林の再生のためには、まず彼らの暮らしを支える経済貢献が必要でした。また、植林が進んだ後は、再生した森がまた伐採されないよう、地元小学校への啓発と支援も進めました。木を植える。そのシンプルな環境貢献のために一番必要になったのは、地元で暮らす人々との対話でした。森がよみがえり、人に笑顔が戻る。私たちの環境問題への取り組みは「対話」からはじまります。



インドネシアバリヤン第二小学校

対話するエコ。

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上



公益財団法人医用原子力技術研究振興財団

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町7-16 ニッケイビル5階

TEL:03-5645-2230 FAX:03-3660-0200

<http://www.antm.or.jp>

新しい情報はホームページに掲載いたしますのでご覧ください。